

「読者の広場」

(株) 神戸製鋼所

環境エネルギー部 山本 晃

平成10年1月8日。関東地方に大雪が降り、東京近辺ではJR、私鉄、バス、タクシー等の主要交通機関が麻痺し、多数の通勤・通学者に影響が出た。小職についても例外ではなく、当日、出張していた小職は街中をさまよひ、疲労困憊の末、暖房のきれた自社のオフィスで一夜を明かすことになってしまった。

.
.
.
.
.
.

当日、出張先での会議が終わった夜半には、地上を走るJRのほとんどは運休状態となっており、タクシーもごくまれにしか走っていない状況であった。地下鉄を使い漸く東京駅までたどりついたが、そこには200~300人もの人がタクシーを待っているという有り様であった。しかも、普段なら待つことなく乗れるタクシーが、その時は1分間に1~2台程度の割合でしか戻ってこない状況であった。当然ながらホテルも満杯状態。日付も既に変更になっていた。仕方なく、我々4人は10~15cm深さのみぞれ状態の歩道をさすらい、靴の中まで冷水を一杯にして、自社のオフィスに戻り夜を明かすという結果になった。文字どおり「寒さが身(足?)にしみた夜」であった。

考えてみれば、この大雪は前日の天気予報でテレビ・ラジオを通じ大きく伝えられており、ある程度の対応準備はソフト・ハード面共にできたはずである。不幸？なことに、今回予報はずばりの中した。天気予報の当たる確率はコンピュータの発達とデータベースの蓄積により、このところ格段に上がった感があるが、それをならしめた人類の自然への対応の無力さは従来以下になったのかも知れない。皮肉なことである。

この大雪も気候変動が招いた結果の一部であろうか、それとも通常の気象現象なのか。昨年にはメキシコでも大雪が降ったが、これらは過去最大級のエルニーニョ現象の影響による自然現象なのか、それには人類の生産活動も一部影響しているのではな

いか等様々な意見がある。小職は専門家でないので判断しかねるが、確かに、この頃の地球の様子はいい方向には向いていない。異常気象、大気・海洋汚染、土壌汚染、CO₂濃度上昇等人類の生産活動に伴い、人類が発生させた事象・有害な事実は拒めない。今、人類の知恵が試されている。

昨年12月京都で、通称COP3という国連気候変動枠組み条約第3回締約国会議（温暖化防止会議）が開催され、2000年以降のCO₂排出量削減目標について議論され、京都議定書において、先進国のCO₂削減目標が定められた。日本にとっては大変厳しい目標となったが、我々産業界の自主努力とともに、国民のライフスタイルの見直し等国を上げて目標達成する姿勢が必要である。今後、施策立案・実施の面で、日本政府の舵取りに期待するところは大きい。そして何よりもまず、国民一人一人が現状の認識と自覚をもって今後対応していくことが必要である。これは地味な努力かも知れないが、最終的にはこれしかないのではないかと思う。それには、PR活動はもとより教育の中にもより積極的に地球環境問題を取り入れていくことも対策の一つになり得ると考えられる。

水素はその製造過程が自然エネルギー利用の場合は、LCA（ライフサイクルアセスメント）的に評価すれば、極めて環境負荷の少ない理想的なエネルギーであると思う。現時点では、どうしてもコストの点では現状主流となっている化石燃料には及ばないが、将来の主要エネルギーとして人類がごく自然に使える時代が来ることを真に切望します。

したがって、環境分野の業務に携わる者の一人として、水素エネルギー協会と協会に係わる開発・研究者の皆様の活躍には大いに期待するところです。今後とも製造・輸送・保管・利用・システム技術等の周辺技術も含めた斬新で素晴らしい一層の成果が出ることを願ってこの原稿のペンを置きたいと思います。